

# 一 般 質 問 要 旨



## 通学路の安全対策について

創政クラブ 中村 和正

**議員** 全国における児童生徒の交通事故においては、平成18年からの10年間で1582人の死亡者、7万9869人の負傷者が出ています。本市における近年の児童生徒の交通事故発生状況を伺います。

**教育部長** 26年度から28年度までの本市の児童生徒の交通事故の件数は193件です。なお、死亡事故は発生していません。  
**議員** 全国では毎年のように通学路での交通死亡事故が発生している現状において、児童生徒への安全教育の推進や既存の道路標識等の規制だけでは不十分と考

えられます。車道に意図的に凹凸を付け、通過車両の減速を強制的に行わせるハンブというものがあります。海外では通学路や住宅密集地等にハンブの設置が広く行われ、安全確保に効果的なのようです。この積極的な導入について所見を伺います。

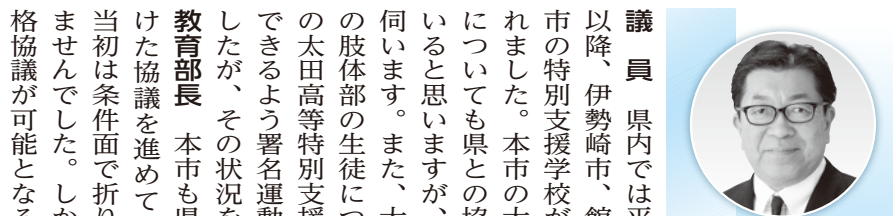
**都市政策部長** ハンブは速度抑制効果がある反面、周辺住宅からの振動苦情により撤去を余儀なくされた事例もあるようです。設置に関する安全かつ効率的な国の整備基準もないため、引き続き研究したいと考

えます。  
**議員** ハンブを一部の通学路で実証することについて、教育長の所見を伺います。

**教育長** 児童生徒の事故で一番多いものは、子ども側の不注意による事故であり、まずは子どもへの安全教育が第一です。ハンブの設置は、地区住民や警察等との協議の中で検討していく方法もあると考

えます。  
**議員** 本市の住みよさ向上のためにも、ハンブ設置を含めた子どもたちの安全対策について、市長の所見を伺います。

**市長** 通学路にハンブを設置すると、安全性が向上する反面、通学時間帯以外の円滑な車両通行に支障をきたす懸念があります。ハンブの画一的な設置よりも、地域の実情に合わせた安全対策を検討すべきと考



## 市立太田養護学校の今後及び課題について

創政クラブ 星野 一広

**議員** 県内では平成25年の春以降、伊勢崎市、館林市、桐生市の特別支援学校が県立移管されました。本市の太田養護学校についても県との協議が進んでいると思

いますが、その状況について、隣接の太田高等特別支援学校へ進学できるような署名運動が行われませんが、その状況を伺います。  
**教育部長** 本市も県立移管に向けた協議を進めてきましたが、当初は条件面で折り合いがつきませんでした。しかし今般、本

つつあります。また、署名運動等の結果、太田高等特別支援学校への進学は、30年4月からの受け入れが表明されました。

**議員** 全国的には医療的ケアが必要な子どもに対し、学校生活全般に保護者の付き添いを強いられた例が少なくないと聞きます。そのため、保護者が就労できない例もあるようです。太田養護学校における医療的ケア児への対応を伺います。

**教育部長** 看護職員が痰の吸引などの医療的ケアを実施要綱に基づいて実施しています。保護者には1週間程度、来校および

待機を規定していますが、状況によって来校期間を短縮するなど、柔軟な対応に努めています。  
**議員** 24年6月定例会の一般質問における市長答弁では、県立移管でサービ

スが低下するならば引き続き本市が継続運営したいとの意向が示されています。また、医療的ケア児の保護者の付き添いは、県立移管後も配慮をいただきたいと思

います。  
**教育部長** 県立移管後もサービスマン等の維持を担保できるように、県との交渉を進めていきます。また、保護者の付き添いに関しても、できる限り負担軽減となるよう要望したいと思



## ごみの減量について

創政クラブ 五十嵐 あや子

**議員** 県のごみ排出量は、毎年全国でワースト3に入っています。本市における一人一日当たりのごみ排出量を伺います。

**産業環境部長** 平成27年度の環境省の調査結果における一人一日当たりの平均ごみ排出量は、全国で939グラム、県では1031グラム、本市は1049グラムです。  
**議員** ごみの処理手数料について伺います。

**産業環境部長** 可燃ごみと不燃ごみを清掃センターやリサイクルプラザに自己搬入した場合、家庭系および事業系ともに10キログラム当たり130円です。

**議員** 太田市一般廃棄物ごみ処理基本計画における、ごみ減量化の進捗状況を伺います。

**産業環境部長** 26年度から15カ年計画で実施しており、24年度実績を基準値として、30年度に5%削減の目標値を設定しています。中間目標値に対する28年度の実績値は、家庭系ごみは減

量率5.4%と目標を達成していますが、事業系ごみは1.1%増加しており、現時点では目標に到達していません。今後も積極的なごみ減量化に向けた啓発活動に努めたいと思

います。  
**議員** 他市の例では、事業系ごみの処理手数料を値上げした自治体の多くが、ごみ減量が図られたという結果が出ているようです。子どもたちの未来に負担を残さないという観点でも、事業系ごみの処理手数料は値上げすべきと考



## 利用者目線に立った運動公園等の施設管理のあり方について

創政クラブ 高藤 幸偉

**議員** 本市の運動公園等は、親子の触れ合いや健康増進、競技者には真剣勝負の場であるとともに、市民が親しみや思い入れを持つ

ている場所と思われ、現在、本市が管理運営を行っているスポーツ施設の数を伺います。  
**文化スポーツ部長** 本市が管理運営しているスポーツ施設は、全体で57施設です。

**議員** それらの施設の維持管理方法について伺います。  
**文化スポーツ部長** 基本的には市直営ですが、法定点検をはじめとする専門知識が必要な業務

等については、業務委託を実施しています。  
**議員** 市が管理しているスポーツ施設について、過日、市民と意見交換する機会があり、スポーツ施設の和式トイレが小さな子どもにとっては使いづらいという話を聞きました。また、

高齢者が和式トイレを使用する際には、転倒するなどの危険性が高い場合があるとのこと

です。トイレはその設備の性格上、全ての人が使う機会があり、安全かつ快適に使用できる環境づくりが大切です。スポーツ施設のトイレについて和式か

ら洋式への改修を図ることについて所見を伺います。  
**文化スポーツ部長** スポーツ施設のトイレの洋式化も、安全性や利便性の向上の一助となると思

います。緊急性や現状改善の必要性、使用頻度などを考慮して改修を図りたいと思

います。  
**議員** 本市はスポーツの充実を通じて、市民の健康長寿も推進しています。利用者目線に立ち、市民満足度を向上させるためにトイレ改修が必要と思

いますが、市長の所見を伺います。  
**市長** 高齢者にとっては洋式トイレが必須なのではないかと思